

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	中部国際空港 FLIGHT OF DREAMS	階数	地上4F
建設地	愛知県常滑市セントレア1丁目1番地	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条区域	平均居住人員	300 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	物販店,飲食店,集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月 予定	評価の実施日	2017年3月17日
敷地面積	17,990 m ²	作成者	本田聡一郎
建築面積	6,674 m ²	確認日	2017年3月21日
延床面積	11,077 m ²	確認者	本田聡一郎



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準計算: 30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆☆☆ 100%超:☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 93%

③上記+②以外の: 93%

④上記+: 93%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 3.3

Q2 サービス性能: 3.6

Q3 室外環境(敷地内): 3.1

LR1 エネルギー: 3.8

LR2 資源・マテリアル: 3.7

LR3 敷地外環境: 3.4

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">40.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

みんなの環境活動を応援しています
モリトキ 2018

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
			評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 騒音			3.0	0.20					3.0
1.2 遮音			3.0	0.40					
1 開口部遮音性能			3.0	0.94					
2 界壁遮音性能			3.0	0.06					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-					
1.3 吸音			3.0	0.20					
2 温熱環境									
2.1 室温制御			3.5	0.40					3.5
1 室温			4.0	0.50					
2 外皮性能		外部からの熱的影響低減を図る	3.0	0.50					
3 外皮性能		1フロアを複数に区分し、ゾーン単位の冷暖可能	5.0	0.17					
3 ゾーン別制御性			5.0	0.33					
2.2 湿度制御			3.0	0.20					
2.3 空調方式			3.0	0.30					
3 光・視環境									
3.1 昼光利用			3.0	0.11					3.0
1 昼光率			3.0	0.67					
2 方位別開口				-					
3 昼光利用設備			3.0	1.00					
3.2 グレア対策				-					
1 昼光制御				-					
3.3 照度				-					
3.4 照明制御			3.0	0.33					
4 空気環境									
4.1 発生源対策			3.6	0.30					3.6
1 化学汚染物質		全面的に☆☆☆☆の採用	4.0	0.50					
2 化学汚染物質			4.0	1.00					
3 化学汚染物質				-					
4.2 換気			3.5	0.30					
1 換気量			3.0	0.50					
2 自然換気性能				-					
3 取り入れ外気への配慮		6m以上の離隔距離を確保	4.0	0.50					
4.3 運用管理			3.0	0.20					
1 CO ₂ の監視			3.0	0.50					
2 喫煙の制御			3.0	0.50					
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ			3.7	0.40					3.7
1 広さ・収納性			3.0	0.40					
2 高度情報通信設備対応				-					
3 バリアフリー計画			3.0	1.00					
1.2 心理性・快適性			4.4	0.30					
1 広さ感・景観			3.0	0.17					
2 リフレッシュスペース			3.0	0.10					
3 内装計画		コンセプト・機能性を最大限生かした内装計画とする	5.0	0.73					
1.3 維持管理			4.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計		使用者の維持管理に配慮した設計を心掛ける	4.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		維持管理機能を確保する	4.0	0.50					
3 維持管理用機能の確保				-					
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震			3.0	0.31					3.0
1 耐震性			3.0	0.48					
2 耐震性			3.0	0.80					
2 免震・制振性能			3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数			3.2	0.33					
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			2.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			5.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		耐用年数の短くなる箇所にはSUS製を使用	5.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔		更新必要間隔の長い管材の採用	3.0	0.23					
2.4 信頼性			3.0	0.19					
1 空調・換気設備			3.0	0.20					
2 給排水・衛生設備			3.0	0.20					
3 電気設備			3.0	0.20					
4 機械・配管支持方法			3.0	0.20					
5 通信・情報設備			3.0	0.20					
3 対応性・更新性									
3.1 空間のゆとり			4.0	0.29					4.0
1 階高のゆとり			4.2	0.31					
2 階高のゆとり		階高3.9m以上確保	5.0	0.26					
3 空間の形状・自由さ		将来の用途変更などへの対応性を向上させる	4.0	0.74					
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.31					
1 荷重のゆとり		展示: 5,000N/m ² 物販・飲食3,500N/m ²	5.0	0.31					
3.3 設備の更新性			3.0	0.38					
1 空調配管の更新性			3.0	0.17					
2 給排水管の更新性			3.0	0.17					
3 電気配線の更新性			3.0	0.11					
4 通信配線の更新性			3.0	0.11					
5 設備機器の更新性			3.0	0.22					
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.22					

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③		2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	周辺へ悪影響を与えないよう配慮する	4.0	0.40				4.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		3.0	0.30				3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50				3.0
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
BPI=0.52								
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.30				5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20				3.0
3 設備システムの高効率化								
集合住宅以外の評価(3a.3b)		高効率空調機、LED照明採用による省エネルギー設計	3.8	1.00				3.8
集合住宅の評価(3c)								
4 効率的運用								
集合住宅以外の評価			3.0	0.20				3.0
4.1 モニタリング			3.0	1.00				3.0
4.2 運用管理体制			3.0	0.50				3.0
集合住宅の評価								
4.1 モニタリング								
4.2 運用管理体制								
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源保護								
節水型器具の採用								
1.1 節水			3.4	0.15				3.4
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.0	0.40				4.0
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67				3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33				3.0
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07				2.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24				3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20				3.0
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	断熱材、化粧吸音板、ビニル床タイル	5.0	0.20				5.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05				3.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	OAフロア採用、躯体と仕上材は容易に分別可能な工法	5.0	0.24				5.0
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32				3.0
発泡剤のODP,GWPが低い断熱材を採用								
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68				4.0
1 消火剤			-	-				-
2 発泡剤(断熱材等)			5.0	0.50				5.0
3 冷媒			3.0	0.50				3.0
LR3 敷地外環境								
ライフサイクルCO2概算値:93%								
1 地球温暖化への配慮	①		3.2	0.33				3.2
2 地域環境への配慮								
燃焼機器なし								
2.1 大気汚染防止			5.0	0.25				5.0
外装材に断熱性能の高い部材を採用								
2.2 温熱環境悪化の改善			4.0	0.50				4.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制								
1 雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25				3.0
2 汚水処理負荷抑制	独自		3.0	0.25				3.0
3 交通負荷抑制			3.0	0.25				3.0
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25				3.0
3 周辺環境への配慮								
用途地域より1ランク上の基準に適合する								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.2	0.33				3.2
1 騒音	独自		3.0	0.40				3.0
2 振動	独自		3.0	1.00				3.0
3 悪臭			-	-				-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								
1 風害の抑制			3.3	0.40				3.3
2 砂塵の抑制			3.0	0.70				3.0
3 日照障害の抑制								
3.3 光害の抑制								
1 屋外照明及び屋内照明の立ち外に漏れる光への対策			3.7	0.20				3.7
広告物なし。屋内チェックリストを満たす。								
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			4.0	0.70				4.0
			3.0	0.30				3.0

重点項目スコアシート

中部国際空港 FLIGHT OF DREAMS

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
② 資源の有効活用				3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:40%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	本計画は、ボーイング社より寄贈されたボーイング787号機の試験初号機「ZA001号機」を展示するための屋内施設として計画する。この機体の35%が中部地域で製造されていることもあり、試験初号機が寄贈されるに至った。この機体を、地域産業のレガシーとして展示する。また次世代の人材育成も見据えた教育的な施設も取り入れ、地域と航空産業に大きく貢献する施設を目指す。
Q1 室内環境	建物外皮には、高性能断熱材を採用して外部からの熱的影響を低減させる。また全面的な☆☆☆☆建材の採用や、外気取入口と排気ガラの離隔距離を確保する事で室内の空気質環境向上を図る。
Q2 サービス性能	建物コンセプト・求められる機能性を実現するため、内装計画を事前に検討する。また十分な階高を確保する事で、建物の対応性・更新性を向上させる。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺の景観・まちなみへ悪影響とならないよう配慮したファサードを形成する。
LR1 エネルギー	高効率設備機器の採用・LED照明の採用から、エネルギー消費量を抑えた省エネルギー設計を企図する。
LR2 資源・マテリアル	節水型器具採用による水資源保護に努める。またリサイクル材を使用する事で非再生性資源の使用量削減を図る。断熱材には、発泡剤に有害物質を含まないものを使用する。
LR3 敷地外環境	建物運用時のエネルギー消費量を抑えた設計とする事で、二酸化炭素排出量抑制に努める。
その他	-